

平成30年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標		1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり				
評価項目	現状	具体項目		具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、ICT機器を活用した「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善研究を推進した。	学力の向上	基礎的な知識および技能の向上	組織的、計画的に授業改善を推進する	「学びの文化祭 in Yonago」によるアクティブラーニングの推進と校内推進体制の強化 ICT機器の教員全体の40%活用 コーチングスキル向上による授業改善の促進	B	・4回目となる「学びの文化祭 in Yonago」において80余名が参加し、ICT機器の活用とアクティブ・ラーニングを推進した。 ・各教科においてICT機器活用を促進し、活用率が昨年度の53%から、今年度88%となった。 ・コーチングスキル研修会を実施し、基礎を身につけた。	B
			主体的に学習に取り組む態度の育成	系列の特色化と資格取得を促進する	各系列ごとの学校独自事業の充実 高度資格受験者の50%以上の合格	B	・学校独自事業は計画通り実施した。 ・情報処理検定ビジネス情報部門1級1名、ビジネス文書実務検定1級1名合格した。 ・商業系・家庭系2級以上と農業系3級について、合格者数が33名で合格率49%だった。	B
			思考力、判断力、表現力の更なる向上	テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める	地域経済分析システム (RESAS) を活用した米子市中心市街地活性化計画の構築と地方創生アイデアコンテストへの応募	B	・「RESAS」を活用した米子市中心市街地活性化計画を策定し、入選には至らなかったものの地方創生アイデアコンテストおよび高校生ビジネスグランプリへの応募を行った。	B
2 豊かな人間性の育成	遅刻者数は年々減少している。届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	基本的生活習慣の定着	遅刻者数2割減を目指す	遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	B	・2月末現在で、対前年度比27%減となった。	A	
			規範意識の向上と掃除の徹底	米子高校生としての自覚ある行動の啓発 (問題行動ゼロ) 掃除時間の明確化と掃除の徹底	C	・問題行動ゼロは達成できなかったものの、生徒は全体的に自律している。 ・自転車運転マナーやSNSの使い方に対し指導を強化した。 ・生徒は真面目に掃除に取り組んだ。	B	
		生徒の主体的活動の推進 (国際交流・部活動)	生徒の各種活動への積極的参加を促す	生徒会執行部による各種自主的活動の充実 部活動指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実 アメリカSTA高校・韓国造形芸術高校への交流派遣と受け入れ	A	・生徒会執行部は、学校行事や清掃・挨拶運動等積極的な活動を行った。 ・外部指導者に加え部活動指導員の配置により、部活指導が充実した。 ・STA高校からの生徒受入れができたが、相手校の事情により派遣はできなかった。韓国造形芸術高校に生徒を派遣し、充実した交流を行った。	A	
			支援が必要な生徒への援助	生徒情報を共有し適切なサポートを行う	委員会等の適時開催による情報共有と適切な対応	B	・椅子の消音対策やエビベン の職員研修を行うなど、生徒へのサポートを行った。 ・支援や配慮が必要な生徒が関係する事案について、情報共有が不十分な点もあった。	B
3 自己実現のための進路指導の充実	産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。	キャリア教育の発展	教員の指導力向上と外部指導者の活用	総合学習における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 学習成果発表会において他県生徒を招聘するなど更なる充実	B	・「産業社会と人間」の授業において、社会人講話を実施し、進路に対する意識を高めることができた。 ・プレテーマ学習は計画通り実施した。 ・学習成果発表会は県内外の生徒・教員を招聘し、発表が充実した。 ・新たに3年次生が1・2年次生にキャリアガイダンスを実施した。	A	
		進路指導の充実	生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	教員研修と進路希望検討会を充実させるとともに、高大接続に対応する進路体制の検討 看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・進路希望検討会を実施し、個別受験指導の充実を図った。 ・高大接続改革に向けての職員研修会と、高大連携改革推進プロジェクトチームを組織して進路体制の強化を図った。 ・新たな国公立大学進学先を増やすことができた。 ・看護の職場体験を実施し、進路指導に役立てた。	B	
4 地域との連携による学校づくり	地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	地域のニーズに応じた地域貢献	文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える	漫研・ダンス・演劇・吹奏楽・UTA同好会・書道パフォーマンス等の各種イベントの開催と参加 「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」による地域貢献の推進	A	・ダンス・吹奏楽・UTA同好会・書道同好会が各種イベントや施設を訪問し、パフォーマンスを披露した。 ・ポスターやパンフレット表紙デザインを手がけ、地域のニーズに応えた。 ・花壇用草花植栽活動として米子市文化ホール、JR米子駅、公民館などにプランターを提供した。 ・「イチゴ栽培・収穫」について準備を進めた。	A	
		積極的な社会参画と情報発信	社会につながる教育活動を推進する	「高校生出前キャリアガイダンス」の拡充 総合美術展の開催による情報発信	B	・「高校生出前キャリアガイダンス」は中学校7校で実施し、積極的な情報発信を行った。 ・総合美術展は210名が来場し、芸術拠点校として情報発信ができた。	B	

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要